



人との関わりから育つもの

青葉や紫陽花が美しい季節となりました。子ども達も、園生活に大分慣れ、表情や行動が豊かになってきました。朝の正門の出迎えでは、「園長先生おはよう！」と元気に挨拶するお子さんが増え、少しずつ心を開いてくれるようになったのかな？と、嬉しく思います。乳児さんも、入園当初は、「この人何者？」と言っているかのように、近くに行くだけで泣いたり、担任のところに逃げて行ったりするような警戒する姿がありましたが、今では、少しずつ、「この人は大丈夫！」という安心感が生まれてきたようで、じーと見つめたり、笑ってくれたり、表情がやさしくなりました（笑）。改めて、ふれあいの大切さと毎日の積み重ねの大切さを痛感しています。

さて、進級、入園から2か月が経ち、それぞれの好きなことや居場所を見つけ始めている姿が見られます。一見落ち着いたかのように感じられますが、この時期の子ども達の心も、紫陽花の花が、繊細に色代わりするかの如く、急に甘えたり、駄々をこねたりして、「自分の気持ちを理解してくれる人？」「大切に対応してくれる人かな？」と、周囲の大人の何気ない行動や言葉かけによって、心が揺れ動きます。また、友達の間でも、遊んでいる時に自分の気持ちをうまく表現できず、けんかやイライラが生じることも増えてきて、ケガなどに繋がることもあります。園生活の中での遊びは、楽しさだけではなく、人との関わり方やルール、規範意識も学びますが、習得するにはまだまだ時間がかかります。園での様子は、なるべく丁寧に保護者の方に伝えられるよう努力しておりますが、帰宅したお子さんの様子がいつもと違うと感じた時、保護者の方は、きっと不信感を持たれることと思います。お互いの信頼関係は、一朝一夕にはできるものではありませんが、子どもを大切に思う気持ちは、皆一緒だと思いますので、お子さんだけではなく、保護者の方々にも安心していただけるよう信頼関係の構築に努めていきたいと思っております。

人は決して、一人では生きていくことはできません。たくさんの人と触れ合うことで、相手のことを知り、相手の好みを尊重することができるようになり、共に支えあって豊かな人生が送れるようになります。特に、何か困ったことに直面した時、助けたり、力を合わせて解決したり、新しいアイデアを出すためには、日頃から人とコミュニケーションを取れるようにすることが大切です。子ども達にとって、自分自身をありのままに表現しながら、友達を認めてうまく関係性を築くには、まだまだ、時間がかかりますが、人と沢山関わることで、一緒に感動したり、葛藤したりする経験をより多く作ることがこれからの時代を生き抜くための基礎に繋がると思います。これからも、こども園では、多くの人との関わる活動を大切にしていきたいと考えています。

先日、にじ組さんは、新城小学校の5年生と5・5交流を行いました。にじ組の子ども達は、少し緊張気味ではありましたが、優しく5年生がリードしてくれたお陰で、小学校の初めての環境でも、楽しい時間を過ごすことができました。今回ペアになったお友達は、1年かけて交流を持っていきますので、新しい絆が生まれることを期待します。

人は、人に褒められたり、認めてもらったりすると、より力を発揮します。何かできるようになったときは、「褒める。認める」ことを忘れずに、次へのステップにつながるきっかけになるよう職員も丁寧に対応しています。ご家庭でも、お子さんの一番の理解者でいてください。紫陽花の花言葉には、「強い絆で結ばれる」という意味もありますので、職員一同、お子さんや保護者の方との「強い絆」を結んでいきたいと思っております。今後も、ご理解ご協力をお願いいたします。雨の多い蒸し暑い日が続きますと、何かと体調を崩しやすくなります。お身体には十分ご自愛ください。



ほら、みて！



5・5交流(5年生の教室にて)



お誕生日おめでとう